

【ポスター発表】

福祉学生が抱く仕事像と社会福祉専門職に対する職業イメージに関する考察

○ 久留米大学 大西 良 (6793)

キーワード：社会福祉専門職、職業イメージ、福祉学生

1. 研究目的

文部科学省の中央教育審議会大学分科会が取りまとめた「大学における社会的・職業的自立に関する指導等（キャリアガイダンス）の実施について」¹のなかで、大学生が入学時から自らの職業観や労働観を培い、社会人として必要な資源や能力を形成できるような職業指導（キャリアガイダンス）を大学教育活動に適切に位置づけることが明記されている。さらに、同省は2014（平成22）年からの5カ年計画として「大学の就業力向上プラン」²を掲げ、大学生の就業力向上ならびに育成のための取り組みをさらに強化している。

社会福祉専門職を養成する大学、いわゆる養成校には、より多くの良質な人材を福祉分野に輩出する役割が求められることは言うまでもないが、その役割を十分に果たすためにも、まずは社会福祉専門職を志す大学生（以下、「福祉学生」とする）の社会福祉専門職に対する職業イメージについて把握する必要がある。

そこで本研究では、大学生の就業力向上・育成という観点から、福祉学生を対象に、職業を選ぶ際の条件や理想とする仕事像、社会福祉専門職に対するイメージを明らかにすることを目的とし、職業指導（キャリアガイダンス）の基礎資料として役立てる。

2. 研究の視点および方法

1) 調査対象

福岡県内の社会福祉専門職を養成する4年制大学の学生（主に1年生）122名を対象とした。

2) 調査時期

2012（平成24）年10月に実施した。

3) 調査内容

調査内容は、①基本属性に関する質問項目（性別、学年など）、②職業を選ぶ際の条件を尋ねる質問項目、③理想とする仕事像を尋ねる質問項目、④社会福祉専門職に対する職業イメージを尋ねる質問項目（10の形容詞対によるSemantic differential法）であった。

4) 統計的解析法

無回答や欠損値等の確認を行った上で、度数および記述統計量（平均値、標準偏差等）を求めた。また、社会福祉専門職の職業イメージを尋ねる質問項目については、主成分分析（バリマックス回転）による因子の抽出を行った。抽出された因子については、クロンバックの α 係数を求めて信頼性を確認した。なお、一連の集計および統計処理には、

Microsoft Office Excel 2010 および IBM SPSS Statistics Ver.19 を用いた。

3. 倫理的配慮

本調査は無記名とし、調査対象者への協力依頼文書の中で、本調査の趣旨と目的を伝えた。また加えて、回答はあくまでも任意であり、結果は学術的な目的以外には使用しないことを明記した上で、同意の得られた者から回答を得た。本調査の実施にあたっては、日本社会福祉学会研究倫理指針に準じて個人のプライバシー保護には十分な配慮を行った。

4. 研究結果

まず、職業を選ぶ際の条件については、「仕事内容が自分の関心と一致していること」、「勤務時間が明確に決まっていること」、「終身雇用制であること」が重要な条件であると回答する学生の割合が高かった。

つぎに、福祉学生が理想とする仕事像については、「世の中のためになる仕事」と回答した学生が最も多く（27.9%）、以下、「仲間と楽しく働ける仕事」（26.2%）、「失業の心配がない仕事」（13.1%）、「高い収入が得られる仕事」（13.1%）の順で回答が多かった。

さらに、社会福祉専門職に抱く学生の職業イメージについては、肯定と否定の両側面に関しての回答があり、その内容は「身近・親しみやすい」、「複雑・困難さ」、「穏やか・安全」、「強さ・活発さ」の4つが抽出された。

5. 考察

福祉学生が職業を選択する際に最も重要視している条件は、仕事内容と自身の関心が一致することであり、他の明確な勤務時間や終身雇用制といった仕組み（システム）よりも、内面的な事柄を条件として挙げていることは特出すべき点である。また、理想とする仕事像に関しては、世の中のためになる、あるいは仲間と楽しく働けるといった内発的な動機を重視する傾向にあることが示され、対人援助を主とする社会福祉専門職の職業観に通じる内容であるといえる。さらに加えて、職業イメージについては、講義や実習等で日常的に関心が向けられて日頃から馴染みがあるという理由から「身近・親しみやすい」というイメージを抱いていると解釈できる。一方、「複雑・困難さ」に関しては、社会的課題や援助実践に取り組む社会福祉専門職のイメージが率直に示された結果であると推測される。

参考資料

1. 文部科学省中央教育審議会大学分科会 「大学における社会的・職業的自立に関する指導等（キャリアガイダンス）の実施について」 2009年
2. 文部科学省高等教育局 「大学の就業力向上プラン」 2013年